

英語覚え書き(1)

堀内俊和

Something New or Strange in English (1)

Toshikazu HORIUCHI

これは、日常の教育研究活動を通して気づいたこと、問題となったことがらを、メモ風書きとめていくとする試みである。なお、この試みは、さらに進んだ研究等のきっかけとなったり、諸賢のご助言等をいただいたりすればよいが、というささやかな願いがこめられているものである。

1. *measure* の発音のこと

朝日出版発行のテキスト *The Crazy Ape* 用のテープを聴いていて、〔méigə〕という発音を聞きびっくりした。さっそく *Webster*³ にあたってみると〔mēzh'er, mā'zher〕とたしかに載っていたが、*Webster*² では〔mēzh'er〕だけであり、問題の発音が近年認められたものらしいことがわかりはっとした。念のために他の辞書を調べてみると、問題の発音を載せているのは前述の *Webster*³ (1971) のほか、*Webster's New World Dic.* (Second College Edition, 1970), *Webster's Seventh New Collegiate Dic.* (1972) などで、*AHD* (1969) にも *RHD* (1969) にも載っていないが、我が国の辞書では研究社の「新英和中辞典」(三訂版, 1971) が米音として〔méigə, méigə〕と載せているだけであった。

ところで、〔méigə〕は最近偶然に生じたものであろうか? 辞書に載ったのは1970年以後なのだが、米国においてはそれ以前からかなり行われていたであろうし、英国においてすらその傾向が皆無とは言えないのではないかと考えてくるのである。かの有名な“The Great Vowel Shift”において例外とされた *great*, *break*, *steak*, *yea* と同じつづり字をもつ *measure* であり、Jespersen はこれら4語の例外的発音の説明としてこれらの単語と関連のある他の語形中での単母音〔e〕の存在を指摘したが、〔e〕>〔ei〕という変化においてなにか関係がありはしないかと興味もたれる。ちなみに、*Webster*³, *WNWD* は *pleasure* にも〔ei〕音を認めているし、前者はさらに *leisure* にも〔ei〕音を認めているのだから、現在は〔—ɜə〕という環境においては、〔e〕>〔ei〕という変化が起りつつあるのではないかとさえ思われるのである。

2. *It cannot help it that* …

同じ *The Crazy Ape* の p. 23 につぎの一節がある。

I am not challenging the good faith of our army. It is created to defend us and it wants to do the job well, with the newest and best and biggest instruments. *It*¹ cannot help *it*² that military thinking is, by necessity, callous, narrow and shortsighted, having but one answer to problems — killing. The failure is with civilian governments the world over which use their armies for the solution of their problems, giving free rein to them.

ここで問題になったのは、*It*¹, *it*² がそれぞれ何をさすかということであった。*it*² が直後の *that*-clause をさすということは、こういう仮目的語としての *it* の用法はそれほどめづらしいことではないので、まず異論はないであろう。

問題は *It*¹ であった。ばくぜんと状況をさす *it* だという解釈と、前からのつづきで *our army* をさすという解釈にわかれたのである。前者の解釈も、*It cannot help it* を、例えば、*It is inevitable* でおきかえたとしても意味が通ること、および *cannot help* の主語に *it* が生じることがめづらしいことなどからうなずけなくもない。しかし、*It*¹ が *our army* であったとしても内容がおかしくなるわけでもないし、代名詞 *it* の用法からすれば *It*¹ が *our army* をさすのはごくあたりまえなので、後者の解釈のほうが妥当であろう。

とくにとりたてて問題にすべきことではなかったかもしれぬが、*It cannot help it that* … が興味ある語配列をとっているのだからここに書きとめておく。

3. *dynamo* とは?

さらに、同書 p. 50 につぎの一節がある。

Some time ago I read an article by Warren Weaver, who counted the dynamos in his home and found 12 (if I remember the figure correct-

ly). What nonsense, I thought! What do we need dynamos at home for? Then I set out to count the dynamos in my home and found 16. Without them my household and the quality of my daily life would collapse. This made me realize how much our daily life is dependent on science, how much we owe to science for everything we have.

ここでは, dynamo が普通の「発電機」という意味なのか, ということが問題になった。「発電機」が家庭に12個も16個もあってはおかしいというのである。しかし, 内外の大きな辞書にあたってみても, それ以外の意味は見あたらなかった。そこで, ある学生が, モーターを逆回転させれば「発電機」と同じ働きをするのだから「モーター」のことではないのか, という意見を出したが, ノーベル賞をもらうほどの大科学者が「発電機」と「モーター」とをまちがえるはずがない, というところで, この問題はそのままになってしまった。

では, 事実はいったいどういうことなのだろうか? アメリカの家庭ではいくつもの「発電機」があり, また実際にそれらが必要な状況にあるのだろうか? あるいは, dynamo という語が最近は何か別のものをさすのにも用いられるのだろうか? あるいはまた, 著者 Albert Szent-Györgyi 博士が何かと感ちがいで dynamo という語を用いたのであるか? とにかく不可解な問題である。

4. vegetarian とは?

成美堂発行のテキスト *The Britishness of the British* の p. 36 につぎの一文がある。

Some people refuse to wear anything made of leather and may be seen wearing home-spun tweeds, folk-weave clothes and straw sandals: it does not mean they are poor, just that they are vegetarians.

vegetarian というのは食物に関してだけのことだと思っていたし, 内外の辞書にも「菜食主義者」というような意味しか見あたらなかったので, この文に出くわしたときには少々奇異な感じをうけたのである。

leather ぎらいで, straw sandals や folk-weave clothes のような植物性のものばかり身につけるといふ意味で vegetarian というのだろうか? それにしても, すくなくとも tweeds は羊毛を用いるのだから純植物性ではないはずである。してみると, 上文でいうように一見貧乏人に見えるような質素な服装をしているひとのことをも vegetarian というのだろうか? あるいは, 「菜食主義者」はそのような服装をするひとが多いのだろうか? そしてまた, このような vegetarian の用法は一般的なものなのか, 著者カーカップ氏独特の

用法なのであるか? ちょっと興味ある問題である。

5. they は何をさすのか?

南雲堂発行のテキスト *Technology in Our Lives* の p. 19 につぎの一節がある。

Artificial fibres, such as nylon and terylene, produced in response to this demand are another triumph of technology. It is possible to produce materials which look like wool, silk, velvet and fur, though *they*¹ are often cheaper. In addition *they*² are very practical, easy to wash, need no ironing and wear well.

上文中の *they*¹, *they*² は何をさすのか? また, *they*¹ = *they*² なのだろうか?

ここで一番問題になったのは, *they*¹ が何をさすかということである。文の構造上は *they*¹ が materials which look like wool, silk, velvet and fur をさすのが最も自然であるが, 内容からいうと *they*¹ が wool, silk, velvet and fur だけをさすと考えたほうがよくはないか, ということであった。社会事情, 科学技術の進歩の程度等にもよるであろうが, かりに後者の解釈がなりたつとした場合, このような *they* の使用は英語において普通なのだろうか? (この場合には *they* ではなくて *these* を用いたほうが明快であるように思われるのだが。) また, この場合には, *they*¹ ≠ *they*² は明らかである。

つぎに, *they*¹ の解釈として前者をとった場合, *they*¹ = *they*² はなりたつであろうか? これはかなり自然なように思われる。ところで, In addition との関係で考えた場合, *they*² は artificial fibres をさしているとはとれないであろうか? (もっとも, materials which look like wool, silk, velvet and fur も結局のところ人造繊維なのだから, どちらでもよいのかもしれないが。)

とにかく, 少なくとも筆者にとっては, *they*¹, *they*² (特に前者) はかなりあいまいに感じられた。これは, 日本人, いや浅学な筆者にとってだけの問題なのであるか?

6. such ... that ~ のこと

この相関用法に関しては, 我が国の辞書では, いわば強調表現ともいうべき「ひじょうに … だから ~」というのが載せてあるだけであって, 「~」のような「…」という表現としては such ... as ~ としてあるのが普通である。

しかし, つぎの用例は明らかに後者の表現に近いものである。

(1) Another important principle is that linguistic analysis should be based on *such* criteria *that* any

(competent) independent investigator applying them to the same material would arrive at an equivalent solution. — Sydney M. Lamb, *Outline of Stratificational Grammar* (Georgetown Univ. Press), p. 4.

この場合, native speakerの間では as と that との混用があるとみえて, Fowler の *Modern English Usage* (1968年版, pp. 601~602) では細かに正用法の指示を行っている。それによると, 関係詞として用いるときは as, そうでなかったら (接続詞としては) that ということである。してみると, 例文のような that の用法も正規のものであり, 関係詞を用いて表現することが例文のようにむずかしい場合にはひじょうに便利なものであることがわかる。

つぎに, 例文(2)を考えてみよう。

(2) If, on the other hand, the speaker presupposes that there is a girl *such that* it is known by the hearer that he met her, the relative

clause sentence corresponding to this presupposition will have the conjunct containing *met* as the relative clause, and the head noun will be definite. — Fillmore and Langendoen (editors), *Studies in Linguistic Semantics*, (Holt, Rinehart and Winston, Inc.), p. 81.

これは, おそらくは *such a girl that* ~ と書きかえ可能のものであろうし, そうすれば用例(1)と全く同じことになる。用例(1)の型と(2)の型とどちらがより普通のものかは資料不足で明らかではないが, おそらくは(1)であろう。また, as に関しても *such ... as* ~ という型と *... such as* ~ という型があることを思うとき, これはなかなか興味深い現象である。

さて, ここで問題にした *such ... that* ~ の用法は, 最初に指摘したいわば強調表現ともいべき用法に比べれば使用頻度はずっと低いであろうが, 正規の用法である以上, 我が国の辞書としてもちゃんと記載すべきだと思われる。